

リ・ブラン 京都 LUXEの 景観保全によせて

ツシニ階建てでタチが低く、1、2階ともに外壁は黒漆喰を塗り
ごめ、窓も黒塗りの丸格子。ひたすら控え目で、目立つことを
避けるかのようなこの町家は、友禅染のショールームのように
使われていたといいます。黒づくめの外観は、当初の姿をよく
残しているので、今回の改修事業は、原形を尊重して最小限に
とどめました。

外の地味さは、中の大胆な吹抜けとの対比を狙ったものかもし
れない、と思わせるほど、内部空間とのギャップに大いに驚か
される町家です。

表の間は、高く張られた格天井まで大きく吹抜けています。2階
の窓が天窗となって、光が差し込みます。2階の高さには、手
摺を廻らせてギャラリーを設け、両側には見事な一枚板の扉を
嵌めた収納が並びます。格天井も上質な仕上げです。洋風の
雰囲気を感じさせる、雄大で落ち着いた、不思議な雰囲気を
醸し出しています。

京都の町家では、吹抜けは通常通り土間の上部に限られてい
ます。店の間を吹抜けとする改修事例を時々見かけますが、
このような洋風仕立てで洗練された大空間を持った、それで

京町家まちづくりファンド委員長

大場 修 氏

立命館大学
衣笠総合研究機構 教授



いて小型の町家は類を見ないと思います。この吹抜けは2階の
奥の部屋とも繋がっていて、そこからショールームを見下ろす
こともできます。このような空間体験は、京町家ではめずらし
く貴重です。この豊かな吹抜けの間は、コミュニティカフェや
子ども食堂など、様々なに使われていると聞きます。かつての友
禅染の展示会場は、地域の様々な人々が集える場に、見事に
コンパートされました。大変意義深いことだと思います。



【改修後】1階



『 地域で子どもたちを見守る 』

中学生向けの学習支援や子ども食堂支援は、夜間
に多くの子どもたちが出入りする事業となるため、
地域の理解が重要となります。そこで施設内にコ
ミュニティカフェやレンタルスペースを設け、地域
住民の方々にも自由に利用していただける開かれ
た場になりました。様々な背景をもっている中学
生が、ほっと安心できる居場所づくりを目指され
ています。地域の方々に見守られながら育つ子ど
もたちが、前向きに自分の将来を考えることが
できる場になることを願っています。

京町家を未来へつなぐ基金にご協力を

京町家まちづくりファンドは、京町家の改修助成事業を通じて、所有者・居住者と
ともに京町家を再生し、次の時代につないでいくための基金です。一軒でも多くの京町
家を未来に受け継ぐため、皆様からのご支援をお願いいたします。



京町家まちづくりファンド
ウェブサイト



京町家まちづくりファンド
PROJECTS



京町家まちづくりファンド改修助成事業 記録集
令和4年度選定

リ・ブラン 京都LUXE



Kyoto Center for Community Collaboration

公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター

発行



公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1「ひと・まち交流館 京都」地下1階

TEL 075-354-8701 HP <https://kyoto-machisen.jp/>

当財団では京町家まちづくりファンドの運営をはじめ、京町家の保全・継承の支援に取り組んでいます。

令和8年3月発行

『 受け継いだ京町家 』

—— 条城や神泉苑からほど近くに位置するこの京町家は、
—— 南隣の染物工場のショールームとして使われていました。玄関を入ると広がる格天井の吹き抜けの大空間にぐるりと回廊がめぐらされています。当時、友禅の反物を垂らして商品を展示していたそうです。現オーナーの楠さんご一家がここにお住まいになってからは、大空間を活かしたピアノの教室、お花や踊りのお稽古場として利用されてきました。楠さんのお母様が生前、この京町家の将来について（公財）京都市景観・まちづくりセンターにご相談いただいたことが契機となり、これまで専門相談や京町家カルテの作成などの支援を行ってきました。祖父母や両親との思い出の詰まった京町家をより良い形で受け継いでいきたいとの想いから、京町家まちづくりファンドに応募されました。

DATA

リ・ブラン 京都 LUXE(ラグゼ)

建築年	大正13年～昭和5年頃
形態	戸建て（つし2階建て）
設計／施工	株式会社中蔵

改修前



上【改修前】格天井回廊のある吹き抜け
下【改修前】奥ノマ

中学生の 居場所づくりと 学習支援

楠さんが理事長を務められる社会福祉法人白百合会は長年にわたり、障がい者の就労支援事業と、小学生を対象とした学習支援・子ども食堂活動を行っています。小学生を対象とした支援活動は社会的に注目が高まりつつある一方、小学校を卒業した子ども向けの居場所はまだまだ少なく、通塾の有無による格差が、小学生以上に広がりやすい状況を楠さんは大きな課題だと感じておられました。そこで、これまでの活動を発展させた中学生向けの学習支援活動・子ども食堂活動を、ここ「リ・ブラン京都LUXE(ラグゼ)」で始められることになりました。



【改修前】1階

工夫を凝らした改修

建築当時の面影が残る京町家ではあるものの、アルミサッシなどに改変されていた外観は、昔の姿に戻す改修を行うこととしました。1階や2階のアルミサッシを木製建具に、妻壁のトタンの波板を杉板に、塩化ビニル製の樋を銅製に変更し、室外機やメーターには目隠しを設け、外壁のモルタルも補修しました。また、この京町家の特徴ともいえる黒の外壁に、木製の玄関戸・窓枠・窓格子の色目を合わせ、きりりとした外観に仕上げました。内部は回廊と共に吹き抜けを残し、子どもたちの笑い声が響く空間へと生まれ変わりました。

RESTORE



上【改修後】奥ノマ
下【改修後】妻面に杉板を張る



改修後



社会福祉法人 白百合会 理事長 楠りつこ氏より

「おかえり」。表戸を開けると、いつもほっこりと包み込んでくれた祖母の家。祖父の代から縁を繋いできたこの京町家は、私の人生に寄り添い、穏やかで幸せな記憶へと誘ってくれます。祖母が亡くなり空き家となった後、母が大切に守ってきたこの家を「社会に役立てる形で次世代に繋ぎたい」と考えました。京町家が持つ凛とした佇まいと福祉を融合させ、幼い頃からお世話になった町内の方々や地域福祉へ恩返しができる「地域公益の場」として再生したのです。この新規事業は、今までにない新たな人との繋がりがや出会いを生んでくれました。こうして再び京町家を大切に慈しみ、未来へ歩みを進められたのは、京都市景観・まちづくりセンターの皆様の多大な

るお力添えがあったからこそと、深く感謝しております。この場所が、地域の新たな笑顔を育む拠点となるよう、これからも大切に守り続けてまいります。



【改修後】1階